【ある遭難：道迷い、滑落、そして救助】　　KS

・予定ルート　東日原バス停→稲村岩尾根→鷹ノ巣山→榧ノ木山→倉戸山→倉戸口バス停
・救出場所　標高 1,470m　登山道、榧ノ木山山頂近く　青梅警察山岳救助隊 4 名

【道迷い、救助要請まで】

シルバーウィーク以来、なかなか山に行けなかった。10 月 24 日（土）、紅葉が綺麗だろうと思い、鷹ノ巣山に行くことにした。前日木枯らし一号が吹いたとのニュースがあったが、既に何回か登っている奥多摩の標高 1737mの山なので、風が強いといやだなと思った程度だった。奥多摩駅 8 時 35 分発東日原行きのバスに乗車、満員の為 2 台目に乗車、9 時 35 分バス停出発　車道から登山口への入口に登山届を入れるポストがあったが、身支度に時間が掛かり先を急いでいた為、いつもは提出するのだが、今回は提出しなかった。但し、いつものように行先・行動予定を電車内で妻にメール連絡しておいた。

鷹ノ巣山山頂着 12 時 55 分 途中休憩 30 分 歩行時間 2 時間 50 分　コースタイムより 15 分短縮

山頂は多くの登山客で賑わっていた。山頂発 13 時 45 分、石尾根をそのまま奥多摩駅に下るルートは以前行ったので、今回は、水根山を右に巻き、水根沢林道への分岐を通過し、榧ノ木尾根を順調に下る。紅葉が綺麗で何度か足を止めて撮影する。谷のような窪地になっている箇所の紅葉撮影、14 時 47 分。そこで前を歩くパーティーを追い越す。

その後程なく、広い尾根道となり落ち葉で道が不明瞭となり進むべき道がわからなくなった。前方を見ると、木の枝に結ばれているピンクのリボンが目に入り、それにつられて進むこととなった。今まで歩いてきた道と明らかに異なり、獣道のような悪路で、倒木も多く、大変歩きづらい道ではあったが、次から次へとリボンが確認できるので、歩みを進めてしまった。こんな道が正規の登山道？元来た道を引き返そうかと一瞬頭がよぎったが、倉戸山から女の湯へ下りるルートも難路と地図上でなっていたので、その道なのかなぁ、位に思って歩みを進めてしまった。

いつしかピンクのリボンが見つからなくなり、適当に下へ下へと下っていくことに。気がつくと沢の音が聞こえ、はるか下方に沢が見える急斜面の足場のもろい沢筋に迷い込んでしまった。注意して歩くも足を滑らせ滑落してしまった！幸運にも木の枝が前方をふさいでくれる状態で落ちていて、なんとか途中で止まったが、5～6 mは滑落してしまった。木の枝が無かったら止まらずにはるか下、沢まで滑り落ちてしまったかもしれない。それほど、もろい急斜面であった。滑った時の衝撃で腕を強打してしまった！が、幸いにも怪我はしていなかった。しかし、片方のストックが見当たらない、上をみると斜面に落ちていた。　なんとか斜面を這いつくばって上り、ストックを拾い上げる。この時点で、あたりはかなり薄暗くなってきていた。5 時少し前であったと思う。「遭難」の二文字が脳裏を横切る。

右に進むべきか左なのか現在地がさっぱりわからない。スマホで家に電話しようとしたが圏外で通じない、メールも当然不可。絶対に沢筋に下りてはいけない、という鉄則を思い出す。しかもこんな足場の悪い急斜面は下りたくても無理だ！とにかく、今日中になんとか家に連絡を取らないと、大事になると思い、それなら電波の通じる尾根まで上らないと、という思いから上を目指すことにした。

途中から真っ暗となり、ヘッドランプの光を頼りに、とにかく上へ上へと目指して歩いた。 手にはスマホを持ち、電波状況を確認しながら登ったが一向に圏外のまま。 なんとか尾根のようなところにたどり着き、スマホを見たら何とアンテナが立っていた！　急いで家に電話する。19 時 50 分、通話成功。状況を説明し、妻に警察に連絡、救助要請をするように頼む。自分から警察に連絡出来たのに、かなり動揺していた。その後、妻からの電話により、自分から 110 番通報、20 時 3 分。

【救助要請後位置確認されるまで】

生まれて初めての経験だ。最初の第一報で位置情報をつかんだようだが山岳地域のため、かなり大雑把な位置情報しか取れなかったとのこと。より正確な位置情報を取るため、再度 110 番通報するよう指示される。GPS 装置、高度計の所持の有無を聞かれたが、何も持っていない。 何度か電話でやりとりをしている最中に、ドコモから「緊急位置確認」というメールが届き、その情報を連絡する。月の見える方向、あかりの見える方向を答える。天気が良く満月に近かった。しかし、寒い。

パトカーのクラクションを 2 回鳴らして貰い、どちらから音が聞こえるかの確認、1 回目は山肌に反射してどちらから聞こえるかわからなかったが、2 回目に真下からはっきりと聞こえた。パトカーに林道を 3 往復してもらい、赤色灯が確認できるか確認、3 回目ではっきりと確認できた。白色灯を手で回してもらい見えるかどうか、真下に赤色灯・白色灯をはっきりと確認、また、自分のヘッドランプの光も確認できたとのこと。

23 時 35 分、おおよその位置確認が出来たので今から山中に救助に向かうとの連絡入る。ほっとした。

【救助を待っている間】

スマホのバッテリー消耗を極力減らすために 10 分電源 OFF・5 分電源 ON を繰り返す。
足元があまりにも寒いのでザックカバーを足にまいて風よけをする。どこからか動物の鳴き声が聞こえる。熊に襲われるのが怖かったので、こちらの存在を知らせるためにヘッドランプで時折周囲を照らした。

連絡がつき、真下にパトカーの光が見えたので、1 時間くらいで救助に来てくれるもの思っていたがなかなか来てくれない。その内に谷筋から強風が吹いてきて非常に寒い。食べれば体が温まるだろうと思い、とにかく持っている食料を食べる。幸いにして朝食で残ったランチパック(パン)、普段は持っていかない非常食(カロリーメイト、ソイジョイ)を食べたら体が温まった。とにかく寒く座っていられない。足踏みをして耐える。風を避けるために裏側に回り体が半分ほど隠れる岩陰に腰を下ろす。妻からのメールに励まされる。

【遂に救助、そして下山】

待ちくたびれて連絡を取っていた携帯番号に電話をしようとした矢先、下から白いランプが見えてきた。自分の居場所を叫ぶ。午前 1 時 50 分、救助隊到着！ 助かった！

目に熱いものがこみ上げてきた。救助隊は 4 人、午前 2 時過ぎに出発。自分のヘッドランプの光がかなり暗くなっており、電池の交換の仕方がわからなかった。救助隊の方からヘッドランプと手袋を借りることとする。帰りのルートとして通常ルートとバリエーションルート、どちらにするか聞かれる。バリエーションルートの所要時間は通常ルートの半分程度とのことだが、道は相当悪いとのこと。 幸い怪我はしていないのでバリエーションルートをお願いする。発見された場所であるが、正規の登山ルートからわずか 5m くらい、上の位置であるという。 標高は 1,470m、林道上に止めてあるパトカーへは直線距離で 1.3km とのこと。それが正しいことは、歩き出してわずか数秒で分かった。はっきりとした道に出て、しかも、道標まであるではないか！

バリエーションルートの通り、大変道が悪く足元の悪い道を行く。途中足が言うことをきかなくなり、ザックを持ってもらうことに。最後は車道が見えるところまで来ていながら、道が分からなくなり、安全な道を探すため、救助隊の方が二手にわかれて道を探す場面もあった。しかし、救助隊の人が持っていた【ガーミン】とかいう GPS は素晴らしい！真暗闇の中、どちらに向かえば登山道があるかはっきりわかるらしい。午前 4 時 30 分、林道到着 。その日は星空がとても綺麗で、こんなに綺麗に見える事はあまりないとのこと。流星群も来て

いるので皆で流れ星を見てから帰ろうということになった。数分で大きな流れ星を確認できた。30 分程で奥多摩駅近くにある駐在所に到着。簡単な調書を取られ(ボールペンでなぞるだけ)、登山届を今後必ず提出する、という誓約書を提出、駐在所を後にした。午前 5 時 15 分、妻と子供が横浜から車で迎えに来ており、妻の運転の元、家路に着いた。

【装備】

速乾性の登山半袖シャツ、登山長袖シャツ、速乾性・伸縮性の登山ズボン～以上、行動中身に着けていたもの フリース 1 着、ダウン 1 着、ユニクロの薄いパーカー、ザックカバー、速乾性の登山、半袖シャツ(着替え用)、水筒、ヘッドランプ、予備電池、登山地図、ストック、 非常食・行動食(ソイジョイ、カロリーメイト、塩分補給飴、チョコレート、ビスケット、マジックライス、インスタントコーヒー)、コンロ、燃料、クッカーセット、ライター、スマホ、クマ鈴（前日に調達！）

【所感】

スマホの電波が通じて本当に良かった。家に帰って調べたところ、救助地点付は au・フトバンクは通話圏外、唯一、ドコモだけが圏内でドコモのスマホで本当に良かった。 急斜面を滑落した時、何とか途中で止まってくれた、幸にもどこも怪我はなかった。

辿りついた尾根(電波が通じたところ)がたまたま林道から見えるところで位置確認が出来る地点であり幸運であった。

道に迷い込むまでスマホの電源を切っておいたお陰で、最後までバッテリーが持って良かった。 幸いにも食料はたくさん持っており、食べている間だけは不安感が消えていた。水も残りが約 500cc 持っていた。 上はある程度服を持っていたので寒くはなかったが、とにかく下がズボン一枚と寒かった。

ビバークした場合、凍死することは、無かったとしても寒さにかなりこたえたのでは？と思う。 今まで地図を見て現在地を確認しながら歩くということを余りしていなかった。少しでもおかしいと感じたら立ち止まって現在地を確認する習慣をつけなければいけないこと、道を引き返す勇気を持つ必要性を痛感した。

非常食の重要性、また、ビバークに備え、ツェルト携行の必要性を痛感した。暗闇でも光が遠くまで届くヘッドランプを、息子から借りて持っていたことにより林道から確認が出来、位置確認に役立った。最後まで電池が持ってくれて良かったが、電池交換方法は最低限確かめておく必要あり。

GPS を持っておくといざという時に威力を発揮できるのでは？今回、位置確認まで結局 3 時間半掛かった。

雨具は持っていなかった。幸い雨が降らなくて良かったが、いざという時には防寒具にもなり、天候の如何に関係なく絶対に携行必要。 携帯ラジオとかあった方がよいかも。電波が入れば気休めになるのでは。

この不幸の中、幾つかの幸運が重なったことで救出に至ったと思う。とにかく、電話が通じて良かった！これに尽きます、後、怪我をしなかったことも幸いでした。

中学・高校とワンゲル部に所属し、槍・穂高をはじめ、随分色々な山に 40 年近く登ってきた。今まで、一度も救助要請などした事なく済んでいた。慢心があった。今回の事で、色々な方にご迷惑をかけてしまった。

今後、山を侮ることなく、慎重に楽しんでいきたい。他山の石として頂くべく、この記録を残します。